

病害虫情報(第3号)6月予報

令和5年6月1日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 6月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、ブドウ(大粒種)、キウイフルーツ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、スイカ、カボチャ、メロン】
 - II 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 10
- 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和5年5月24日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 6月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
ヒメビウンカ (縞葉枯病)	並	○	使用する薬剤例 ※防除のポイント 【育苗箱施薬 ヒメビウンカ、イネミズゾウムシ】 アドマイヤーCR箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 エバーゴルフオルテ箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱
イネミズゾウムシ	並	○	【育苗箱施薬 ヒメビウンカ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ】 グランドオンコル粒剤 [移植3日前～移植当日,1回] 50g/箱 プリンス粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 等 ※ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を2023年4月24日に発表している。 ※ 縞葉枯病対策として、ヒメビウンカの防除は必須である。 ※ ツマグロヨコバイの発生が多い地域では、アドマイヤーCR、グランドオンコル、エバーゴルフオルテを使用する。 ※ 紋枯病、白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、エバーゴルフオルテを使用する。
スクミリンゴガイ	—	△	スクミノン [60日,2回] 1～4kg/10a ☞ 湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は落水やかけ流しを行わない。 ※ 取水口にネットや金網(目合い9mm以下)を設置する。 ※ 移植後2～3週間、浅水管理を行う。水深を4cm以下(理想は1cm)にすることで実害がほとんどなくなる。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:早(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	やや多	○	(予) ジマンダイセンまたはペンコゼブ水和剤 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 黒点病:600~800倍 みかん:[30日,4回],黒点病:400~800倍、そうか病:400倍
そうか病	並	○	(予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍 +クレフノン[-,-] 200倍 等 ◆ 黒点病は散布後に積算降水量が250mmを超えたら、再散布する。 ◆ 黒点病は、伝染源である樹上枯枝を剪除し、園内に放置しない。 ◆ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	並	○	マシン油乳剤(97%,98%) 等
カイガラムシ類	-	○	◆ マシン油乳剤は商品によって希釈倍数・使用時期が異なるので、ラベルの記載に従う。
ミカンサビダニ チャノキイロ アザミウマ	-	○	ハチハチフロアブル[前日,2回] ミカンサビダニ:2,000~3,000倍 アザミウマ類:1,000~2,000倍 コテツフロアブル[前日,2回] ミカンサビダニ、 アザミウマ類(ネギアザミウマを除く):2,000~6,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】 生育:早(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	並	○	(予) キノンドーフロアブル[3日,9回] 1,000倍 (予・治) アンビルフロアブル[7日,3回] 1,000~2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル[14日,5回] 1,500倍 (予・治) ミギワ20フロアブル[前日,3回] 2,000~4,000倍 等
アブラムシ類	やや少	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤[前日,3回] 2,000倍 オリオン水和剤40[3日,2回] アブラムシ類,シンクイムシ類:1,000倍
シンクイムシ類 (発生時期)	(やや早)	○	コルト顆粒水和剤[前日,3回] アブラムシ類:4,000倍 等
カメムシ類	やや少	△	◆ カメムシ類、シンクイムシ類の発生消長は、ホームページの情報を参考にする。 ◆ シンクイムシ類の第2世代の幼虫を対象とする防除は、第1世代の成虫発生ピークから7~9日後が適期である。
ニセナシサビダニ	並	○	サンマイト水和剤[21日,1回] 1,000~1,500倍 等
ハダニ類	並	○	ダニサラバフロアブル[前日,2回] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

【カキ】

生育:早(生産技術部果樹花き研究課:松本早生富有)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
落葉病	並	○	(予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000倍 等
うどんこ病	並	○	
コナカイガラムシ類	—	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 等
カメムシ類	やや少	△	
カキノヘタムシガ (発生時期)	(やや早)	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 ディアナWDG [前日,2回] 5,000~10,000倍 等 ❖ カキノヘタムシガ第1世代幼虫の防除適期は、富有の開花盛期(開花率80%以上)から10日後である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ブドウ(大粒種)】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
べと病 黒とう病 晩腐病	— やや多 —	○	(予・治) ホライズンドライフロアブル [21日,3回] ベと病:2,500~5,000倍 黒とう病、晩腐病:2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) カナメフロアブル [前日,3回] 黒とう病:4,000倍 (予・治) オンリーワンフロアブル [前日,3回] 黒とう病、晩腐病:2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	—	○	アディオン水和剤 [7日,5回] 2,000~4,000倍 アドマイヤー顆粒水和剤 [21日,2回] 5,000~10,000倍 ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 等 ❖ 袋内に侵入しないように、止め金をしっかり固定する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

【キウイフルーツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
かいよう病	並	○	(予) コサイド3000 [収穫後～果実肥大期, -] 2,000倍 等 ❖ 症状が急速に進行する場合は、かいよう病新系統の感染が疑われる。
果実軟腐病	—	○	(予・治) トップジンM水和剤 [前日, 5回] 1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チャ】

生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カンザワハダニ	多	○	【二番茶の萌芽～2葉開葉期】 コテツフロアブル [7日, 2回] 2,000倍 アグリメック [7日, 1回] 1,000倍 等
チャノミドリ ヒメヨコバイ	やや多	○	
チャノキイロ アザミウマ	並	○	
チャトゲ コナジラミ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「摘採*日前まで」を「*日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
疫病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 400~600倍 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日, 3回] 1,000~1,500倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ホライズンドライフロアブル [前日, 3回] 1,500~2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。等												
			◆ 疫病の病原菌は、気温20℃前後で活発に活動し始め、降雨が続くと激発しやすい。過繁茂、密植を避け、畑の排水を良くする。マルチなどにより、雨滴の跳ね上がりを防ぐ。												
うどんこ病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000~4,000倍 (予・治) パルミノ [前日, 5回] うどんこ病: 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300~600倍 (治) ベミデタッチ [前日, —] 500倍 等												
			◆ うどんこ病は多発してからでは防除が困難になるため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。												
アブラムシ類	並	○	モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [前日, 2回]												
コナジラミ類			アザミウマ類、コナジラミ類: 2,000倍												
タバココナジラミ	並	○	チェス顆粒水和剤 [前日, 3回]												
オンシツコナジラミ	多	○	アブラムシ類、コナジラミ類: 5,000倍												
アザミウマ類	並	○	カスケード乳剤 [前日, 4回]												
			ミカンキイロアザミウマ: 2,000倍、コナジラミ類: 4,000倍												
			サンクリスタル乳剤 [前日, —]												
			アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍												
			ベミデタッチ [前日, —] コナジラミ類: 500倍 等												
			◆ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。												
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。												
オオタバコガ	並	○	アニキ乳剤 [前日, 3回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 等												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] べと病:1,000~1,500倍、うどんこ病:1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	並	○	(予・治) エトフィンフロアブル [前日,4回] べと病:1,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パレード20フロアブル [前日,3回] うどんこ病:2,000~4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] うどんこ病:2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] うどんこ病:300~600倍 等
アブラムシ類	並	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍
コナジラミ類 タバコ コナジラミ	並	○	チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍
オンシツ コナジラミ	多	○	アフーム乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。

発生するウイルス病	媒介する害虫
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類
BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類

◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予)フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍
灰色かび病	—	○	(予・治)ベルコートフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ◆発病した果実や葉は、早期に取り除きほ場の外で適切に処理する。
アブラムシ類	並	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍
アザミウマ類	並	○	グレーシア乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍
ミナミキイロ アザミウマ			チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類:5,000倍
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	アフーム乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類:300倍 等
オオタバコガ	並	○	アフーム乳剤 [前日,2回] 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 5,000倍 トルネードエースDF [前日,2回] 2,000倍 等
ハダニ類	—	○	コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネギ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	—	○	(予)ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍
黒斑病	—	○	(予・治)アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍 等 ◆ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	並	○	【生育期:株元灌注】 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [生育期(但し、14日),1回] 400倍,0.4L/m ² 【生育期:散布】 グレーシア乳剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍 アニキ乳剤 [3日,3回] 1,000倍 ポタニガードES [発生初期,-] 1,000倍 等 ☞十分な効果の発揮には、ある程度の湿度を必要とするため、夕方あるいは曇天時や梅雨時期に散布する。 ◆ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【スイカ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
つる枯病	並	○	(予) ジマンダイセン又は ペンコゼブ水和剤 [7日,7回] 400～600倍
炭疽病	並	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:700～1,000倍、炭疽病:700倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] つる枯病:1,000倍 等
うどんこ病	並	○	(予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [3日,5回] 2,000～4,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000～4,000倍 トランスフォームフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
アザミウマ類	多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 アフーム乳剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 カスケード乳剤 [7日,4回] ミナキイロアザミウマ:2,000～4,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	コロマイト乳剤 [7日,2回] 1,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000～1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カボチャ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
疫病	—	○	(予) Zボルドー粉剤DL [-,-] 4kg/10a (予・治) ランマンフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ❖ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。
うどんこ病	並	○	(予) イオウフロアブル [発病前～発病初期,-] 500倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクート水和剤 [7日,4回] 1,000～2,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000～4,000倍 ウララDF [7日,2回] 2,000～4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【メロン】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	並	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] 1,000倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] 1,000倍 等 ◆株元の古葉を摘除して通風を図る。
べと病	—	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [3日,5回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) リドミルゴールドMZ [7日,3回] 1,000倍 ☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 等
うどんこ病	並	○	(予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [3日,10回] 2,000～4,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 8,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000～4,000倍 トランスフォームフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
アザミウマ類	多	○	アフーム乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 カスケード乳剤 [7日,3回] ミナキイロアザミウマ: 2,000～4,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000～1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月)

..... 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 6月の気象予報(気象庁 5月23日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	30%	30%	40%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	40%	40%	20%

*5月25日発表1か月予報による。

(2) 6月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	ヒメビウンカ (縞葉枯病)	少	並	1) ヒメビウンカ越冬世代の密度は、平年並。(±) 2) 予察灯への誘殺は見られず、発生が平年並。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、平年よりやや高い。(+) 4) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	イネミズゾウムシ	少	並	1) 予察灯への誘殺数は、平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	ニカメイチュウ	少	やや少	1) 前年9月の本田調査では被害が見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺は見られず、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップへの誘殺は見られず、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	黒点病	少	やや多	1) 県予察ほ(根府川)では、3月の樹上枯枝量が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年よりやや多い。(+) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	そうか病	少	並	1) 前年10月の巡回調査では、葉での発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	かいよう病 (中晩柑類)	少	並	1) 4月の巡回調査では、越冬病斑の発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除園での発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 巡回調査では、短果枝での発生が平年並。(±) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	シンクイムシ類 (発生時期)	－	(やや早)	1) 第1世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、平年よりやや早いと予測される。
	ニセナシサビダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因
「発生時期」…………… 早、やや早、並、やや遅、遅

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カキ	落葉病	—	並	1) 昨年10月の巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	うどんこ病	—	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	カキノヘタムシガ (発生時期)	—	(やや早)	1) 予察灯調査では、越冬世代成虫の発生時期は平年並。(±) 2) 生育調査では、カキの開花が平年より早い。
ブドウ	黒とう病	—	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
キウイ フルーツ	かいよう病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年より多い。(+) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	—	やや少	1) 落葉内のチャバネアオカメムシ越冬成虫数は、平年より少ない。(—) 2) ミカン花のビーティング調査では、チャバネアオカメムシの発生は平年より少ない。(—) 3) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)でいずれも平年よりやや少ない。(—) 4) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(上吉沢、根府川)、伊勢原、山北でいずれも平年より少ない(—)。 5) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
チャ	もち病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	カンザワハダニ	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや多い。(+) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月) 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年並。(±) 4) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	ツマグロアオカスミカメ	少	並	1) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年並。(±) 1) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	ハマキムシ類	少	並	1) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや少 2) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年並。(±) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
露地トマト	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 青色粘着板の捕虫数は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマともに発生が平年並。(±) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
露地 キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 青色粘着板の捕虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや多く(+)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和5年・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナス	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	—	並	1) 露地キュウリの巡回調査では、寄生は見られず、発生は平年よりやや少ない。(—) 2) 青色粘着板の捕虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや多く(+)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
露地トマト 露地 キュウリ ナス	アブラムシ類	—	並	1) 巡回調査では、トマトでは発生が平年よりやや少なく(—)、キュウリでは発生が平年より少ない 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年より多い。(+) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	タバココナジラミ	—	並	1) 巡回調査では、トマトでは発生が平年よりやや多く(+)、キュウリでは発生が平年並(±)。 2) 施設の巡回調査では、トマトでは発生が平年並(±)、キュウリでは寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(—)。 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	—	多	1) 巡回調査では、トマト、キュウリともに発生が平年より多い。(+) 2) 施設の巡回調査では、トマト、キュウリともに発生が平年よりやや多い。(+) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
ネギ	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 青色粘着板の捕虫数は、平年並。(±) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
露地野菜 全般	オオタバコガ	—	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜と伊勢原では平年より少なく(—)、三浦では平年並(±)。 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年よりやや少ない(—)。 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (—):少発要因

病害虫情報 (令和5年・第3号・6月) 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

病害虫名	作物名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少 少	並 並	1) 巡回調査ではスイカ、メロンとも発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
うどんこ病	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少 少 少	並 並 並	1) 巡回調査では、スイカでは発病は見られず、発生が平年並(±)、メロンとカボチャでは発病は見られず、発生が平年よりやや少ない(-)。 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
アブラムシ類	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	中 多 中	やや多 多 多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年よりやや多く(+)、カボチャとメロンでは発生が平年より多い(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より多い。(+) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
アザミウマ類	(スイカ) (メロン)	中 多	多 多	1) 巡回調査では、スイカとメロンともに発生が平年より多い。(+) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
ハダニ類	(スイカ) (メロン)	中 中	やや多 やや多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年より多く(+)、メロンでは発生が平年よりやや多い(+) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (-):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(マネージ)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ)の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルC、プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(ルビゲン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回